

解剖学特論

[講義] 第1・2学年 前期 選択 2単位

《担当者名》 下村敦司 shimo@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

解剖学は人体を対象とした学問体系の中で最も基礎的な学問であり、臨床症状とその要因を関連付けて考察する際にも必須の知識である。臨床症状の原因を解明するには、解剖学を局所的に掘り下げて、構造だけではなく機能的な視点を持って学び、考察を深める必要がある。解剖学特論では、様々な臨床症状に対して、構造的視点と機能的視点を通して、その予防方法や治療方法を、学生自身が調査・考察することを学ぶ。

【学修目標】

リハビリテーションに関する基礎的研究や治療方法の探求を行うために、解剖学的手法を基に身体の構造と機能を理解する。

1. 解剖学の学問的歴史を説明することができる。
2. 臨床症状を解剖学的な視点を持って調査することができる。
3. 臨床症状に関する調査結果から、その予防方法や治療方法を考察することができる。
4. 解剖学的構造と機能を、運動学を始め関連する他科目と関連付けて考察することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 12	肉眼解剖学	四肢、体幹、頭頸部の構造と機能について局所的に習得し、理解する。	下村敦司
13) 15	微細解剖学	細胞や組織レベルの微細な構造を理解する。	下村敦司

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

授業の内容に伴うレポートを課題とし、評価を行う。（レポート100％）

【教科書】

特に指定せず、授業内容や課題内容に応じて必要な資料を推薦または指定する。

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【学修の準備】

授業内容について、事前に紹介する書籍や文献等を活用して予習を行うこと（約120分）。

授業後は、授業資料や授業時に紹介した書籍や文献等を基に学習を深めること（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

リハビリテーション領域における高度な知識および技術を修得し、対象者が抱える諸問題に対して、科学的根拠に基づいた質の高い臨床実践を展開できる問題解決能力を身につけているというリハビリテーション科学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。